

令和２年度久慈市一般会計・各特別会計歳入歳出決算及び 定額の資金を運用するための基金の運用状況審査意見書

第１ 審査の対象

- 1 令和２年度久慈市一般会計歳入歳出決算
- 2 令和２年度久慈市国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算
- 3 令和２年度久慈市国民健康保険特別会計直営診療施設勘定歳入歳出決算
- 4 令和２年度久慈市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- 5 令和２年度久慈市魚市場事業特別会計歳入歳出決算
- 6 令和２年度久慈市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算事項別明細書
- 7 実質収支に関する調書
- 8 財産に関する調書
- 9 定額の資金を運用するための基金の運用状況

第２ 審査の期間

令和３年７月２７日から令和３年８月４日まで

第３ 審査の方法

- 1 審査に付された令和２年度一般会計及び各特別会計歳入歳出決算書並びに附属書類（以下「決算書類等」という。）が、関係法令に準拠して調製されているか否かについて審査した。
- 2 決算計数の正確性の検証と予算が法令及び条例等に基づいて適正かつ効率的に執行されているか否かについて、会計伝票、諸帳簿及び証書類等によって照合調査を行うとともに、定期監査及び出納検査の結果を参照して審査した。
- 3 財産に関する調書については、財産台帳、備品台帳と照合調査を行いその正確性について審査した。
- 4 定額の資金を運用するための基金については、運用状況調書及び証書類によって計数の正確性を照合調査し、かつ運用の適否についても審査した。
- 5 その他必要に応じて関係職員から説明を求めるなど、通常必要と認められる審査手続きによって審査した。

第4 審査の結果

- 1 決算書類等は、関係法令に準拠して調製されているものと認められた。
- 2 決算書類等に記載の金額は、会計伝票、諸帳簿及び証書類等と符合し、計数的に正確であると認められた。
- 3 予算執行状況については、概ね適正であることが認められた。
- 4 財産に関する調書に表示の公有財産、物品、債権及び基金の記載高は、関係書類等と符合し、正確であると認められた。
- 5 定額の資金を運用するための基金は、おのその設置の目的に沿って運用され、かつ計数的に正確であり、その執行は適正であると認められた。

第5 審査意見

1 決算総額及び収支状況

令和2年度の一般会計及び各特別会計の歳入歳出決算を総括すると、歳入決算総額は対前年度比 15.40%増の 34,248,100,450 円、歳出決算総額は 15.23%増の 31,816,839,909 円となっている。歳入総額から歳出総額を差し引いた形式収支（歳入歳出差引額）は、2,431,260,541 円の黒字となっている。この形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源 977,540,441 円を差し引いた実質収支も 1,453,720,100 円の黒字となっている。また、当年度の実質収支から前年度の実質収支 1,300,531,273 円を差し引いた単年度収支は 153,188,827 円の黒字となっている。

一般会計では、歳入決算総額が対前年度比 18.05%増の 29,729,089,507 円、歳出決算総額が 18.03%増の 27,416,614,262 円となり、形式収支で 2,312,475,245 円の黒字となっている。この形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源 977,540,441 円を差し引いた実質収支も 1,334,934,804 円の黒字となっている。

一方、特別会計全4会計では、歳入決算総額が対前年度比 0.55%増の 4,519,010,943 円、歳出決算総額が 0.37%増の 4,400,225,647 円となり、形式収支は 118,785,296 円の黒字で、実質収支も同額の黒字となっている。

2 財政状況（普通会計）

普通会計決算に基づく主な財政指標では、経常収支比率（経常的一般財源に占める経常的経費の割合）が前年度を 7.1 ポイント下回る 88.6%で、実質収支比率（標準財政規模に対する実質収支の割合）は前年度を 1.0 ポイント上回る 11.5%となっている。財政力指数（3か年平均）は前年度と同じ 0.42 となっている。当年度末現在の地方債現在高は対前年度比 1.74%減の 22,101,992 千円で、公債費比率は前年度を 0.6 ポイント下回る 11.3%となっている。また、性質別歳出額の比率では、義務的経費が 36.67%（前年度 41.80%）、投資的経費が 13.03%（前年度 17.41%）、その他の経費

が 50.30%（前年度 40.79%）となっている。

依然として厳しい財政状況にあることから、なお一層の適切な財政運営に努められたい。

3 市税等収納状況及び不用額

市税の収入済額は対前年度比 0.42%増の 4,171,871,812 円（還付未済額 13,847 円を含む。）で、収納率は 98.06%（前年度 97.30%）となっている。また、国民健康保険税の収入済額は対前年度比 2.56%減の 693,526,529 円（還付未済額 38,555 円を含む。）で、収納率は 90.71%（前年度 87.89%）となっており、収納率はいずれも上昇している。

市税の不納欠損額は、対前年度比 80.81%減の 5,416,978 円で、収入未済額は対前年度比 11.69%減の 76,907,103 円となっている。また、国保税の不納欠損額は対前年度比 49.28%減の 7,760,514 円で、収入未済額は対前年度比 23.56%減の 63,221,664 円となっている。

収納率向上対策については、市税収納対策方針により明確な目標収納率を定め、滞納額及び新規滞納者の増加を抑制するため、現年度課税分の収納強化、文書催告の内容強化、国保税の納付相談及び岩手県地方税特別滞納整理機構との連携に取り組んでいる。当年度の市税及び国保税の収納率は前年度を上回っており、徴収努力の効果が現れたものといえる。今後も、税負担の公平性と財源確保の観点から、なお一層の収納促進を図り、自主財源の主軸と国保制度の根幹をなす両税の収入の確保に努められたい。

また、税外収入についても全体の収納率は向上しているものの、使用料及び返還金等において、なお多額の収入未済額が見受けられることから、全庁横断的・効果的な取り組みを強化し、滞納者の実情に応じた適切な債権管理の下に、収入未済額の解消に一層努力されるとともに、新たな未済額の発生の未然防止に取り組まれたい。

全会計の不用額総額は 2,129,744,408 円（一般会計 1,973,606,055 円、特別会計 156,138,353 円）で、予算現額 36,808,628,323 円の 5.79%にあたり、前年度と比較して 739,401,084 円（25.77%）の減少となっている。

4 基金の運用状況

定額の資金を運用するための基金（7 基金）については、それぞれその設置目的に沿って適正に運用されている。

5 総 括

令和2年度においても、久慈市総合計画の着実な進展及び久慈市復興計画に掲げるプロジェクトの推進に向けて取り組んできた施策、事務事業等の行政評価により検証しながら、重点的かつ効率的な市政運営に努めており、予算議決の趣旨に沿って諸施策が概ね効果的に執行されたものと認められた。

当市の財政状況は、自主財源の柱である市税収入が人口減少や地域経済の現状から、大きな伸びは期待できない現状である。また、歳出面においても扶助費や公債費などの義務的経費が高い水準で推移することや、今後も大型公共事業等の実施が見込まれているほか、東日本大震災や度重なる台風等の自然災害、新型コロナウイルス感染症の影響により、非常に厳しい財政運営が続くものと予想される。また、事業を実施するに当たっては、労務者不足等により繰り越す事業が多く見受けられ、その対策が必要である。

今後は、震災や台風被害からの復旧・復興はもとより、新型コロナウイルス感染症対策や諸課題に迅速かつ的確に対応し、当市の更なる飛躍につなげるため、引き続き、収入・財源確保に最大限の努力を払うとともに、厳しいコスト意識をもって事務事業を選択し、執行方法についても適正に行い、なおかつ効率的・効果的な取り組みを図られたい。

そして、久慈市の目指す将来像「子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち 久慈」の実現に向け、安定した財政基盤を築くため組織一丸となって取り組み、市民福祉の向上と市勢発展に努められるよう望むものである。